

回答書（１回目）

工 事 名：R 8 徳土 正木ダム 上勝・正木 観測設備改良工事

路線名等：正木ダム

工事箇所：勝浦郡上勝町正木

（１／１）

N o	質問内容	回答
1	露点計発信器の検出方法が特記仕様書では薄膜センサ方式となっておりますが一般的に露点計発信器の検出方式はすべて塩化リチウム塗布式となります。（メーカーより）既設製品も現在同様の塩化リチウム塗布式で運用しておりますが塩化リチウム塗布式で問題があるのでしょうか。問題がある場合は理由をご教示頂けます様お願い致します。	大気中の湿度を測定するため、メンテナンスフリーの観点から、薄膜センサ方式を選定した。
2	気圧計の測定範囲が特記仕様書では300hPa～1060hPaになっておりますが気象庁では、気象測器検定測定範囲は870hPa～1080hPaとなっており860hPa以下の気圧は現実に使用外とメーカーは考えております。気象庁が地上気象で採用している製品の為500hPa～1100hPaの測定範囲製品で問題ないと考えておりますが問題があるのでしょうか。問題がある場合は理由をご教示頂けます様お願い致します。	「気象測器の検定要領」の記載（870hPaから1,050hPa）を満足していれば問題ない。修正特記仕様書を公開する。
3	設計図面（図面番号５）には「ワイヤー巻上げ器」が取替機器として記載されておりますが見積り参考資料には対象取替の記載がありません。且つ、ワイヤー固定点が交換できない仕様の為取替ができません。図面上では黒字と考えてよろしいでしょうか。	取替対象外である。修正図面を公開する。